

第2回石巻地域普及活動検討会

日時：令和7年1月31日(金)
午後1時10分から午後4時まで
場所：JAいしのまき 農業情報センター

1 開 会

2 挨拶

宮城県石巻農業改良普及センター所長 渋谷智行

3 検討

(1)令和6年度プロジェクト課題実績概要について

(2)令和6年度完了プロジェクト課題の実績報告について

- ・課題No. 1 産地を形成する多様な担い手のステップアップによるいちごの産出額向上

(3)継続プロジェクト課題の実績報告及び次年度活動計画について

- ・課題No. 2 小ねぎ産地における次世代の人材育成
- ・課題No. 3 水田におけるばれいしょ及びさつまいもの安定生産
- ・課題No. 4 省力化技術の活用による優良大豆種子の生産性向上

(4)重点課題活動実績について

(5)令和7年度普及指導計画案及び新規プロジェクト課題活動計画について

- ・令和7年度普及指導計画の概要について
- ・新規課題 トマト黄化葉巻病の媒介昆虫タバココナジラミに対する防除体系の構築

4 意見交換

5 閉 会

令和6年度
第2回石巻地域普及活動検討会
検討資料

令和6年度普及指導計画プロジェクト課題実績概要

令和6年度普及指導計画プロジェクト課題実績概要				令和7年1月31日 石巻農業改良普及センター			
課題名	計画期間	対象(地域等)	概要	課題名	計画期間	対象(地域等)	概要
1 産地を形成する多様な担い手のステップアップによるいちごの産出額向上 (継続課題) 「園芸振興」「アグリテック」関連課題	令和4年度 ～ 令和6年度	J Aいのまき共販部会 石巻共産組合 (16戸) 河内共産組合 (33戸) やまといちご生産組合 (7戸) (株)いちご石巻 (石巻市) (株)アグリ・パレット (石巻市) (株)ドライベリファーム (石巻市) (株)黄金ファーム (石巻市) (株)イグナルファーム(東郷町) (株)サンエイト (東郷町) (株)アソラ (東郷町)	【背景】 ・石巻地域のいちご生産は、巨理地域に次ぎ県内第二の産地となっている。 ・近年、高齢化により栽培者数・面積が減少、これに伴い販売額も減少傾向にあるが、需要が底堅い品目で単価も比較的安定している。 ・環境測定機器の導入等、新たな取り組みの動きがあり、栽培技術の向上により収量、販売額の増加が期待できる。 ・農業法人による先端技術を用いた栽培が行われている。 ・新規品目としていちごに取り組む農業法人の動きがある。 【活動事項】 ・J A部会への技術改善と環境制御など新しい技術向上に向けた支援 season3 ・各法人の課題改善による収益向上への取組支援 season3 ・新規参入者への技術向上・安定支援 season3 【R6年度の成果】 ・前年作は、夏季の猛暑により花芽分化の遅れやバラツキにより年内出荷量が減少したこと、今年作では育苗中の肥培管理や花芽分化の確認を徹底し年内出荷量の向上を図った。花芽分化確認後の定植が定着されたことや10月以降に日照量が多かったため単価の高い年内出荷量が増加した。 ・環境制御技術やハウスの管理技術の定着により、定植後の生育が安定し、年内収量の向上が図られた。 ・新規参入者については、技術向上が図られており、生産ステージに合わせた管理について意識が高まり、実践できている。 【数値実績】 いちご販売金額 (単位: 千円) (目標) R3:71.5→R4:76.3→R5:81.1→R6:85.8 (実績) R3:71.5→R4:79.5→R5:87.9→R6:89.0	3 水田におけるばれいしよ及びさつまいもの安定生産 (新規課題) 「園芸振興」関連課題	令和6年度 ～ 令和7年度	(株)めぐみーと (東松島市: ばれいしよ) (農)おおしお北部 (東松島市: ばれいしよ) (農)エコルファーム (石巻市: さつまいも)	【背景】 ・石巻地域では平成25年からばれいしよ、令和元年からさつまいも栽培に取り組む農業者が増えて作付面積が年々拡大し、令和5年度の作付面積は、ばれいしよ41.7ha、さつまいも6.9haとなっている。 ・収益性を確保する目安として、ばれいしよは3.0t/10a、さつまいもは2.0t/10aとされている。(農園研) ・しかし、水田を活用して概ね3～5ha以上の作付けの場合、ほ場の排水性に差があることや作業量の拡大と連動し排水対策や病害虫防除が不十分となり、目標収量を得られず課題となっている。 ・ばれいしよ、さつまいもは水田を活用した露地野菜品目として作付け拡大が実需者からも期待されている。 ・今後、生産拡大を図っていくためにほ場ごとの排水対策の実施や病害虫防除技術の普及定着が必要となっている。 【活動事項】 ・ばれいしよ技術対策支援活動 ・さつまいも技術対策支援活動
2 小ねぎ産地における次世代の人材育成 (継続課題) 「園芸振興」関連課題	令和5年度 ～ 令和7年度	J Aいのまき スリムねぎ部会青年部 11人	【背景】 ・J Aいのまきスリムねぎ部会は28人で生産活動に取り組んでいるが、高齢化の進行や販売単価の低迷等により、生産意欲の低下がみられている。 ・部会には青年部(11人)が組織されており、青年部員が部会の主要な役割(部会長等)を担っていることから、部会の活動方針等については青年部員の関与が大きくなっている。 ・青年部員は、各々が課題を抱えているが、販路の拡大や共同選別の取組など部会の方向性について前向きに考えている者もみられる。 ・スリムねぎ産地として維持・発展を図っていくためには、青年部員の生産意欲を高め、部会を活性化することが必要となっている。 【活動事項】 ・青年部員の個別課題分析・解決支援 ・青年部による産地活性化に向けた取り組み検討支援 【R6年度の成果】 ・重点指導した青年部員2人は、自身の課題を認識し、解決に向けて自発的に動き始めている。 ・青年部員が中心として実施した高温対策の実証を支援し、部会としての高温対策技術の知見が高まった。 ・選別場導入に向け、部会全体の課題を共有し、他産地の情報提供とともに意見交換会を実施し、部会としての産地維持活性化に向けた意見が集約された。	4 省力化技術の活用による優良大豆種子の生産性向上 (新規課題) 「アグリテック」関連課題	令和6年度 ～ 令和7年度	(株)クリーンライス (石巻市) (有)高須園産 (石巻市) (農)アスターファーム (石巻市) (農)ドリム農野 (石巻市) (農)たてファーム、和 (石巻市) (株)東洋田舎組合 (石巻市) (株)ばるのファーム (東郷町)	【背景】 ・宮城県は北海道に次ぐ全国2位の大豆生産地。石巻地域は県産大豆種子の約20%を生産している。 ・3法人、1生産組織が種子大豆生産を担い、令和5年度は6品種で計25.7haが作付けされている。 ・主に病害等を取り除くために行われる手選別作業に手間やコストがかかるため、種子大豆生産から撤退や縮小の意向を示す生産者が出ている。(R4年度に1法人撤退) ・悪害、高温の影響や紫斑病等の病害虫、雑草対策、収穫時の青立ちにより、収量、品質が低下する事例が見られる。 ・大豆は水田活用の重要品目であり、高位安定生産による生産性の向上が必要となっている。 ・以上の要因により対象の増収・高品質や作業性の向上による効率化への意向は高まっている。 【活動事項】 ・収量・品質向上のための栽培技術指導 ・アグリテック活用による省力化と機械選別による軽労化(作業時間、人数等)の評価 【R6年度の成果】 ・ほ場巡回での指導や普及が提供した栽培管理チェックシートへの活用により、各生産者がこれまでの栽培状況からそれぞれ課題を認識し、改善についての検討または実践が進んだ。 ・実証会における自動選別高速選別した選別機の紹介や情報提供により、アグリテックの活用による利点が浸透し始め、作業体系や価格面などを確認しながら自組織でのアグリテック導入を検討する動きが進んだ。 ・R6年度では4/7組織がR5年度より10%以上増収した。



令和6年度 第2回

石巻地域普及活動検討会

課題No.1(R4～6年度)



産地を形成する多様な担い手の ステップアップによる いちご🍓の産出額向上

目 次

- 01 対象
- 02 背景と課題
- 03 目標
- 04 これまでの成果
- 05 令和6年度の活動内容及び成果
- 06 まとめ



01

対

象

対象

JAいしのまき共販部会：3組織36戸

石巻苺生産組合(16戸)、河南いちご生産組合(13戸)、やもといちご生産組合(7戸)

農業法人：5法人

(株)いちごランド石巻、(株)アグリ・パレット、(株)トライベリファーム、(株)イグナルファーム、(株)サンエイト

新規参入農業法人：2法人

(株)黄金ファーム、(株)アソラ

計画期間 令和4～6年度

チーム員

R4年度 ◎今野 誠、三上綾子、鈴木秀人、浅野裕斗

R5年度 ◎今野 誠、片岡信幸、鈴木秀人、浅野裕斗

R6年度 ◎菅原克哉、片岡信幸、浅野裕斗



02

背景と課題
①

◎石巻地域のいちごの課題は・・・

石巻地域のいちご栽培は、昭和40年代から始まり、亘理地域に次ぐ県内第二の産地となっているが・・・



①JA部会

- ・JAいしのまきで共販する3つの部会では、高齢化により栽培者数、面積、販売金額とも減少してきている。

⇒技術改善と環境制御など新しい技術向上に向けた支援



02

背景と課題 ②

② 農業法人

- ・震災復興事業等により先進的な栽培施設が建設され、先端技術を導入した栽培が行われている。
- ・近年は、資材や人件費の高騰に対応した生産性の向上や規模拡大などへの取り組みが求められている。

⇒課題改善による収益向上への取り組み支援



02

背景と課題 ③

③ 新規参入者

- ・新たにいちご栽培を開始した法人があり、技術習得と経営安定が必要
- (株)黄金ファーム：令和4年産から栽培開始。
- (株)アソラ：大崎市鹿島台で被災し移転。令和5年産から栽培開始。

⇒基本技術の習得による収量及び経営の安定化に向けた支援



☆本普及計画の成果目標

○定性的目標

- ・JA共販部会が収量向上や省力化等につながる新たな技術に取り組むことで高齢化による面積減少を補い、共販量・金額が増加する。
- ・各農業法人の収益向上・経営安定に向けた課題が改善される。
- ・新規参入者が基本技術を習得し、安定した収量を得られる。

◎定量的目標

R3年産 71.5千万円（計画作成時）→R4年産 76.3千万円

→R5年産 81.1千万円 →R6年産 85.8千万円（R6年6月実績）

◎令和4年度🍎

◇JA部会

環境測定機器を用いた施設内環境管理に取り組む部会員が12人に増加

※計画作成時3人⇒令和4年産栽培から導入9人

部会全体の平均収量⇒令和3年産3.8/10aから令和4年産4.0t/10aに増加



◇各法人

これまでの栽培状況、経営状況を基にそれぞれの課題を確認

⇒令和5年産から改善に向けた取り組みを開始



◇新規参入法人

(株)黄金ファーム：補助事業を活用して規模拡大、養液栽培中心の栽培

(株)アソラ：鳴瀬地区で施設を再建し栽培を開始



03

これまでの成果②

◎令和5年度♥

◇JA部会

環境測定機器を導入し環境制御に取り組む12人は、技術習得が進み収量向上

※部会全体の平均収量は基準年に対して10%向上

(R3 産3.8 t / 10a ⇒ R5 産4.2 t / 10a)



◇各法人

それぞれの課題の改善に取り組み全法人で販売金額が増加。

一部法人は、燃料、肥料、人件費などコストも増加⇒収益性の向上が課題



◇新規参入法人

(株)黄金ファーム、(株)アソラは、栽培を通して年間作業の流れを体験。

基本技術を学んだが、目標の収量と販売金額には届かなかった。

05

令和6年度の活動内容及び成果①

◎令和6年度の取り組みと成果♥

○花芽分化確認の徹底

前作では年内出荷量が減少したので、定植前の

花芽検鏡を徹底し、単価の高い年内の出荷量の

増加を図った。

⇒普通栽培では、年内出荷量が前年と比べ増加した。

○定植後の適切な栽培管理

定植後の水管理や温度管理を適切に行い、根張りの良い

株づくりと腋果房の分化促進を進めた。

⇒夜冷栽培では腋果房の開花がバラついたが、普通栽培

では揃いが良く2月上旬から出荷見込み



05

令和6年度の活動内容及び成果②

◆令和6年度の取り組みと成果

○環境制御技術の活用

増収に向け効率的な光合成を行われるように適切な管理に向けた情報提供を行った。

⇒ハウス内環境への関心は高まっており、品種に合わせた効率的な管理が試行された。



○病害虫の適切な防除

現地検討会や個別巡回を通じてローテーション防除や効果的な防除方法の情報提供を行った。

⇒薬剤散布量や薬害などに留意した防除が実施され、防除技術の向上につながった。



06

まとめ①

☆定性的目標

◎JA共販部会が収量向上や省力化等につながる新たな技術に取り組むことで高齢化による面積減少を補い、共販量・金額が増加する。

【実績】

	令和3年産 (計画作成時)	令和4年産	令和5年産	令和6年産
JA部会販売実績	359	378	429	478



☆定性的目標

◎各農業法人の収益向上・経営安定に向けた課題が改善される

【実績】

A：病害による減収を無くすために育苗，栽培ベンチ消毒の改善策

B：複数あるハウスの生育，収量を平均して向上する取り組み

C：規模拡大した新規ハウスの収量の安定化

D：栽培担当社員の技術向上を図るため定期的な勉強会を開催

E：基本技術を見直し、冬期間の休みや小玉果軽減対策

◎新規参入者が基本技術を習得し安定した収量を得られる。

【実績】

(農)黄金ファーム

R5年産 8百万円⇒R6年産 11.7百万円

(株)アソラ

R5年産 9百万円⇒R6年産 14百万円



☆定量的目標

【実績】

いちご販売金額の推移

	令和3年産 (計画作成時)	令和4年産	令和5年産	令和6年産
販売金額(目標)		763	811	858
販売金額(実績)	715	795	879	910
内JA部会	359	378	429	478



◎今後の課題

○育苗期

高温対策：遮光、換気、灌水、培土

花芽分化の誘導：肥培管理

病虫害対策：炭疽病、萎黄病



○定植後の管理

高温対策：活着、腋果房分化、暖候期の管理

燃油・資材高騰：温度管理、肥培管理、CO₂等の環境制御

病虫害対策：アザミウマ等



◇産地の維持

高齢化、担い手確保、規模拡大、省力化

令和6年度 第2回石巻地域普及活動検討会

課題No.2

小ねぎ産地における次世代の人材育成

計画期間

令和5～7年度

チーム員

◎玉手英行、高田千春、
今野育子、浅野裕斗



目次

- | | |
|----------------|-------------|
| 01 課題の背景 | 06 活動内容② |
| 02 対象 | 07 活動内容③ |
| 03 昨年度の成果と課題 | 08 今年度の成果 |
| 04 今年度の目標と活動内容 | 09 課題と来年度計画 |
| 05 活動内容① | |

01 課題の背景

桃生地区では、小ねぎの個別農家が園芸における主な担い手

JAいしのまき 桃生スリムねぎ部会

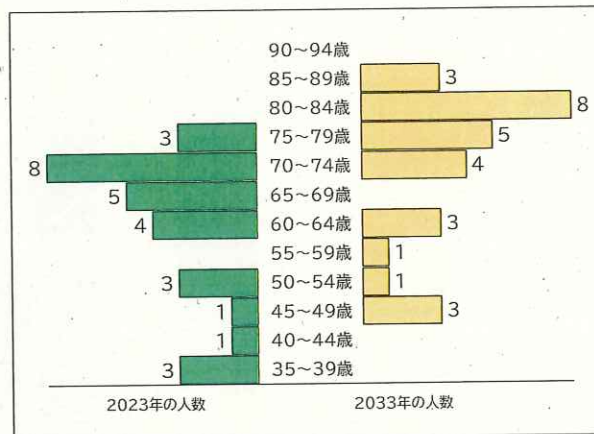
部会員数 28戸(60歳以上20人)

近年の年間出荷数量・販売額は減少傾向

10年後は高齢化が著しい…

が、これからの部会を担う
若手もいる！

いまのうちに次世代の
人材育成を！



スリムねぎ部会員の年齢構成

02 対象

対象はスリムねぎ部会青年部員 11人

50代以下の部会員と、部会員の子弟で構成
(50代 3人、40代 3人、30代 5人)



部会の将来を前向きに捉えているが
それぞれに課題を抱えている

青年部員の課題

栽培技術 労働力不足

方向性がバラバラ 経営管理

03 昨年度の成果と課題

活動項目	活動の様子	R5年度の成果	R5年度活動を踏まえた課題
青年部員における産地の課題把握・意識醸成支援		・意向調査に向けて意識付け ・水産との連携に前進	・意向把握の未実施 ・部会としての課題の共有化
青年部員の個別課題分析・解決支援		・青年部員2人は前年より出荷量増 ・重点指導者2人は自発的に改善	・猛暑や労働力不足で出荷量減の青部員 ・経営指導の未実施
栽培環境を主とした基礎的栽培技術指導		・部会全体に減肥や土壌診断の意識が芽生えた	・塩類集積した施設の改善 ・虫害（ネダ二類）への対策 ・猛暑対策

04 今年度の目標と活動内容

目標

定性的目標	① 青年部員が自身の課題を理解し、改善に取り組む ② 産地の課題が共有化され、活性化への取組が検討される
定量的目標	R4年産実績よりも出荷量が上回る青年部員数 4人

活動内容

青年部員の個別課題分析・解決支援	 聞き取りによる課題把握	 伴走的に巡回指導	 部会全体への情報共有	 自発改善の促し
青年部による産地活性化に向けた取組検討支援	 選別場導入シミュレーション	 役員会・部会全体への提案の支援	 部会全体への意向調査	 意向調査結果のまとめ

05 活動内容 ①

青年部員の個別課題分析・解決支援 副部会長の2人を重点対象に選定

Aさん（30代）

資材を多用しコスト高

- ⇒ 経費の定期的な把握を促す
- ⇒ 自らの希望で、簿記記帳指導を実施
- ⇒ **世帯独立し、自分で確定申告実施予定！**

Bさん（40代）

作業が遅れがち

- ⇒ 人材派遣や農福連携の事例を情報提供
- ⇒ **来春以降に就労支援事業所の活用を予定し、作業改善に意欲！**

他の青年部員へも定期的に巡回指導を行った結果、
意欲向上や自己改善に向かう青年部員も現れてきた！



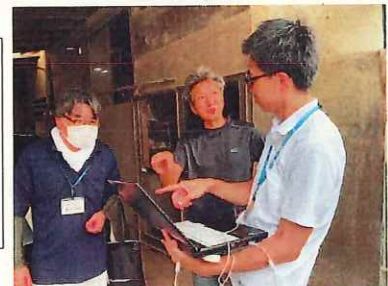
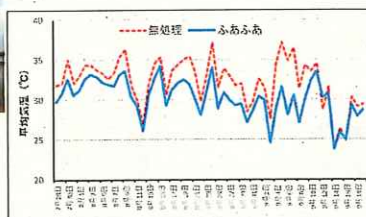
06 活動内容 ②

青年部による産地活性化に向けた取組検討支援



昨年は酷暑により出荷量は大幅減

- ⇒ 国の事業と、高温対策技術を情報提供
- ⇒ 部会として事業を活用し、青年部員4人を中心に実証に取り組んだ
- ⇒ 結果を部会全体の研修で共有、対策技術を議論
- ⇒ **今冬以降、部会として技術マニュアルを作成予定**



07

活動内容

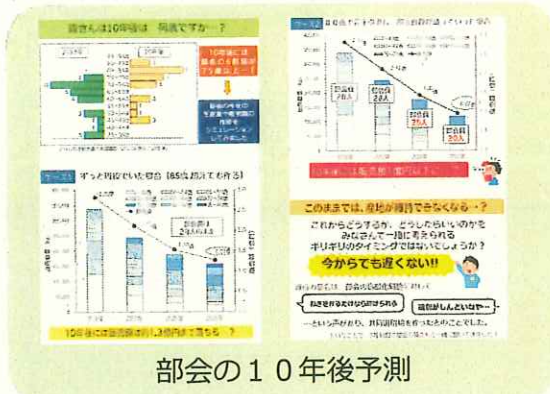
③

青年部による産地活性化に向けた取組検討支援

部会全体に向けて資料提供

部会の将来について議論する意識が醸成された

選別場導入に関する意見交換会の実施に向け、調整中



08

今年度の成果

定性的目標①	青年部員が自身の課題を理解し、改善に取り組む
成果	重点対象とした副部会長2人は、それぞれの課題を認識し、解決に向けて取り組み始めた。 高温対策技術において、青年部員が主体的に取り組んだ結果を踏まえ、部会内に高温対策の意識が浸透した。
定性的目標②	産地の課題が共有化され、活性化への取組が検討される
成果	青年部含め部会全体で、高齢化や部会全体の出荷量の低下を改めて認識し、課題を共有した。 今年度中に、選別場導入に関する意見をまとめる予定。
定量的目標	R4年産実績よりも出荷量が上回る青年部員数 4人
成果	3人

08

課題と来年度計画

活動項目	今年度の活動を踏まえた課題	次年度計画
青年部員の 個別課題分析 ・解決支援	・生産量の伸び悩み ⇒ 労働力不足や高温の影響 ・高温対策技術の波及	・R5, 6年度の活動で得られた知見を横展開 ・高温対策技術マニュアルの作成
青年部による 産地活性化に 向けた取組検 討支援	・選別場導入に向けた検討、合意形成ができていない	・選別場導入に向けた体制整備を支援

No. 3 水田におけるばれいしょ 及びさつまいもの安定生産

令和6年度第2回
石巻地域普及活動検討会

目次

- 01 検討課題概要
- 02 課題と背景
- 03 目標（定性的、定量的目標）
- 04 活動内容
- 05 成果
- 06 まとめ



01 検討課題概要

○対 象：（株）めぐいと
（農）おおしお北部
（農）エコルファーム

○計画期間： 令和6～7年度

○チーム員： ◎浅野裕斗、片岡信幸
菅原克哉、橋本佳奈



02 背景と課題

・近年、石巻地域でばれいしょ、さつまいもの生産者が増加している。

・中でも大面積に水田でのばれいしょ、さつまいもの生産に取り組む対象法人の収量は低く留まっている。

・これまでの取組で「きわめて排水性の良いほ場」で栽培し、「病害虫防除の徹底」を行うことで高収量を得られることがわかっている。

取組面積の推移

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
ばれいしょ	24ha	35ha	39ha	48ha
さつまいも	2.1ha	4.1ha	6.6ha	5.4ha

令和5年の対象法人の平均反収

	令和5年	収益性確保 の目安
ばれいしょ	2.2t/10a	3t/10a
さつまいも	1.5t/10a	2t/10a



02 背景と課題

- ・水田の利用→ほ場の排水性に優劣がある。
- ・大規模の生産→作業が多く、ほ場の状態も一様でないことから、排水対策や病虫害防除が不十分となる場合も。



収量の減少や品質の低下

- 徹底した排水対策と病虫害防除
- 連作障害防止やほ場利用効率を踏まえた輪作体系の検討



大雨後の畝間滞水



夏疫病発生の様子

03 目標（定性的、定量的目標）

定性的目標

- ・各農業法人の生産技術の向上により、収量の増加が図られる。
- ・経営シミュレーションを活用した輪作体系や経営収支が検討できるようになる。

定量的目標

- ・ばれいしょ R6：2.4t/10a
- ・さつまいも R6：1.8t/10a



04 活動内容



ほ場ごとの透水性調査



排水対策効果確認と溝切り



現地検討会



実績検討会

04 活動内容



病害虫・除草防除及び施肥指導



現地検討会



収穫作業確認



実績検討

04 活動内容



・ポテト通信による
取組状況の発信

・ポテト通信2月号と現地事例集を作成中

05 成果



カットドレーンによる補助暗渠施工



二重明渠の施工

◎ほ場排水性改善に対する
意識の向上



令和5年7月4日 夏疫病発生ほ場



令和6年7月4日 病気発生なし

◎徹底した病害虫対策
と追肥の施用

05 成果



・収量結果

ばれいしょ生産法人	年度	10a換算収量
(株)めぐいと	R5	約2.6t
	R6	約3t
(農)おしお北部	R5	約2.1t
	R6	約1.3t

さつまいも生産法人	年度	10a換算収量
(農)エコルファーム	R5	約1.5t
	R6	約2t

05 まとめ

定性的目標

- ・各農業法人の生産技術の向上により、収量の増加が図られる。
- ・経営シミュレーションを活用した輪作体系や経営収支が検討できるようになる。

成果

- ・(株)めぐいと、(農)おしお北部は二重明渠の徹底や、適期の防除と追肥等栽培技術の向上が見られた。(株)めぐいとは収量が向上した。
- ・(農)エコルファームは、肥料や農薬の施用を法人自身で適切に判断し、栽培することができ、収量が向上した。
- ・これまでの輪作体系の振り返りや、転作候補作物を法人と検討し、他作業との競合や機械化体系、人手不足などの課題を把握した。

05 まとめ

定量的目標

- ・ばれいしょ R6 : 2.4t/10a
- ・さつまいも R6 : 1.8t/10a

成果

- ・ばれいしょ R6 : 1.8t/10a (R5 : 2.2t/10a)
- ・さつまいも R6 : 2.0t/10a (R5 : 1.5t/10a)

・ばれいしょは（農）おおしお北部の種芋の腐敗等による減収が大きく影響した。



腐敗した種芋



腐敗による欠株

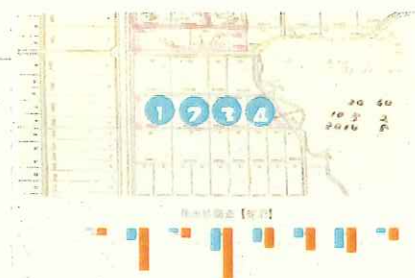
06 今後の課題

✓（農）おおしお北部の反収の向上

- ・排水マップの作成によるほ場の排水性の情報提供
- ・補助暗渠等の排水対策の施工方法や施工時期の検討

✓ 輪作体系の経営収支の検討

- ・シミュレーションシートを活用した検討支援
- ・輪作体系の指針の作成



R6に作成した排水マップ



農園研作成のシミュレーションソフト

06 次年度の計画

ばれいしょ 技術対策支援



輪作体系の
収支の検討
圃場整備地区で
の栽培支援

さつまいも 技術対策支援



ほ場巡回
や情報提供
現地検討会を
中心に活動を
継続

情報発信活動



ポテト通信
圏域版
「いも読本」
の発刊

06 今後の生産振興に向けて



大規模な栽培面積に加え、大雨の頻度の上昇などの異常気象により安定した栽培は難しくなっていますが、安定生産に向けた活動を今後も継続していきます。

令和6年度

第2回 石巻地域普及活動検討会

継続プロジェクト課題 No.4

省力化技術の活用による 優良大豆種子の生産性向上

計画期間：令和6～7年度

担当チーム員 大泉武士、穴戸修、佐藤泰久、川戸菜摘

目次

- 01 課題概要について
- 02 課題の背景
- 03 活動の目標
- 04 活動の内容
- 05 活動の成果
- 06 今後の活動の進め方
- 07 令和7年度の活動計画
- 08 まとめ

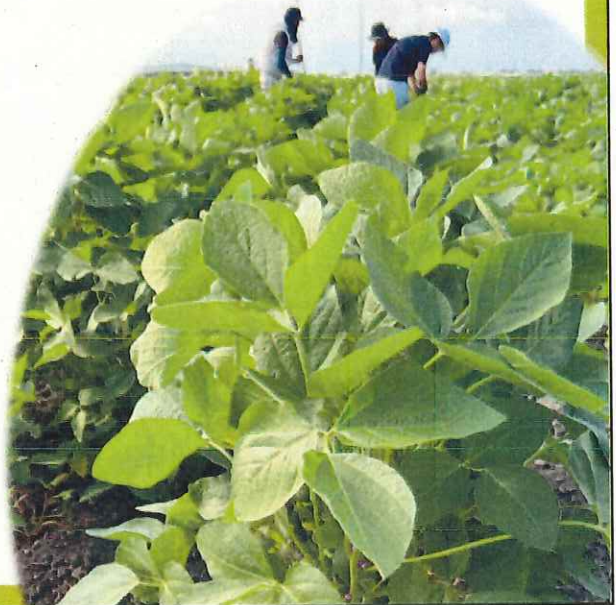


01 課題概要について

対 象：(株) クリーンライス
(有) 高須賀農産
(農) アスターファーム
(農) ドリーム真野
(農) たてファーム・和
蛇田集団転作組合
(株) ぱるファーム・大曲

計画期間： 令和6～7年度

チーム員： ◎大泉武士 大戸修
佐藤泰久 川戸菜摘



02 課題の背景

・ 県内有数の大豆の産地

石巻地域では県内大豆出荷量の約22%を占めている。また県産大豆種子の約20%を生産している。

・ 不安定な作柄

管内大豆は令和4年、5年と気象条件や病害虫、収穫時にほ場に残る雑草、青立ち株によって収量、品質が低下する事例が見られる。

・ 手選別の負担

種子としての品質を確保するため手選別が必要。手選別にかかる労力・人件費が負担となっている。種子大豆生産に対し撤退や縮小の意向を示す生産者が出ている。



03 活動の目標（令和6～7年度）

定性的目標

- 各生産者自身が収量・品質を上げるための改善策を自ら考え、実践する

定量的目標

- 令和6年度：R5年収量を10%上回る組織が3/7組織



活動項目1

- 収量・品質向上のための栽培技術指導

活動項目2

- アグリテック活用による省力化と機械選別による軽労化の評価

04 活動の内容

活動項目1：収量・品質向上のための栽培技術指導

種子大豆播種前研修会

- ・ 令和6年度産の播種前に排水対策、碎土率、播種作業等について指導
- ・ 栽培面、経費面等の情報交換

大豆栽培チェックシート

- ・ 種子大豆の栽培にかかる基本技術について適期適作業の可否とその理由を書き留め、次作に生かすためのシートを作成、配布した



04 活動の内容

活動項目1: 収量・品質向上のための栽培技術指導

適期作業支援

- ・ 年4回の生育調査及び年1回の収量調査を行い、採種ほ場の作柄を把握
- ・ ほ場巡回やほ場審査時に病害虫適期防除、適期刈取について指導



04 活動の内容

活動項目2: アグリテック活用による省力化と機械選別による軽労化
(作業時間、人数等)の評価

高速畝立て播種機実演会

- ・ 従来の播種機より高速かつ高精度で播種作業が出来る「高速畝立て播種機」について紹介
- ・ 大豆生育に対する播種精度の重要性について解説

高速畝立て播種機

速度 5.7 km/h 時間 59分/1ha

耕耘同時畝立て播種機

速度 2.5 km/h 時間 2時間26分/1ha



04 活動の内容

活動項目2:アグリテック活用による省力化と機械選別による軽労化
(作業時間、人数等)の評価

手選別にかかる聴き取り調査

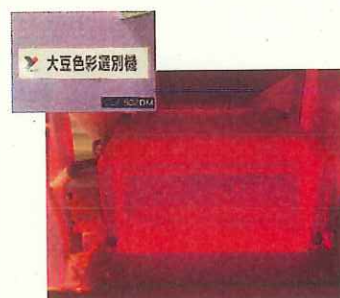
- ・ 選別の手法、人数、日数、経費等を聴取

所要時間：平均1.5～3.5日／1人1袋

経費：7,300～14,000円／袋（3組織算出）

色彩選別機による選別程度の調査

- ・ 色彩選別を0～3回かけた場合の被害粒の選別程度の差や作業時間等について調査



05 活動の成果

活動項目1

- ・ ほ場巡回での指導や栽培管理チェックシートの活用により、各生産者がこれまでの栽培状況からそれぞれ課題を認識し、改善についての検討または実践が進んだ。
- ・ 基準年である令和5年度の収量より10%以上増収した生産組織は7組織中4組織であった。



生産組織	R5年産 実収量	R6年産 実収量	推移
(株)クリーンライス	178	109	↓
(有)高須賀農産	200	240	↑
(農)アスターファーム	190	183	—
(農)たてファーム・和	160	180	↑
(農)ドリーム真野	220	203	↓
蛇田集団転作組合	130	161	↑
(株)ばるファーム大曲	100	178	↑

05 活動の成果

活動項目2

- ・ 実演会における性能の紹介や個別の情報提供により、アグリテックの活用による利点が浸透し始め、作業体系や価格面などを確認しながら自組織でのアグリテック導入を検討する動きが進んだ。
- ・ 播種前研修会にて手選別にかかる労力・経費が管内種子大豆生産組織の間で共有され、現状および改善の必要性について意識共有が行われた。



06 まとめ

定性的目標

R6 : 各生産者自身が収量・品質を上げるための改善策を自ら考え、実践する

実績 : 各生産者がこれまでの栽培状況からそれぞれ課題を認識し、改善についての検討または実践が進んだ



R7 : 種子大豆生産者の栽培技術が高まり、収量や品質が向上する
アグリテックの活用や収穫物の機械選別により、省力化や作業精度が向上し、種子大豆生産者の作付意欲が高まる

定量的目標

R6 : R5年収量を10%上回る組織が3/7組織

実績 : R5年収量を10%上回る組織は4/7組織



R7 : R5年収量を10%上回る組織が5/7組織

07 今後の課題と進め方

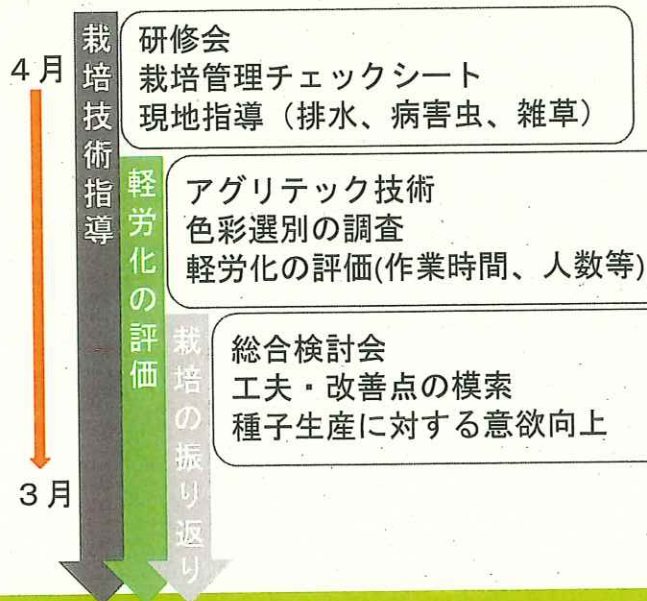
活動項目 1

- ・ ブロックローテーションによるほ場の移動や近年の異常気象に対し病害虫、雑草等の対策を適応させていくことが課題である。
- ・ 今後はそれぞれ個別の課題解決に向けて技術指導や情報提供を行い支援していく。
- ・ 基準年である令和5年度の収量より10%以上増収した生産組織を7組織中5組織を目指す。

活動項目 2

- ・ 現状、対象によってアグリテックや色彩選別機の導入程度や理解に差があることが課題である。
- ・ 今後はアグリテックや色彩選別機の活用による作業の効率化の評価を引き続き行い、検討材料の提供を行っていく。

08 令和7年度の活動計画



令和6年度普及指導計画重点活動実績

1 次代を担う多様な担い手の確保、育成と就労環境整備支援

対象 就農希望者、認定新規就農者、雇用就農者、女性農業者、農業経営者、農業法人等

農業の後継者確保育成は喫緊の最重要な課題であり、国では新規就農者育成総合対策をもって農業への人材の一層の呼び込みと定着を図っている。

石巻管内における令和5年度の新規就農者は12人となっており、その過半は雇用就農となっている。人出不足が課題となっている昨今、法人経営体が多い当管内において快適な就労環境を整備することは経営体の義務であり、新規就農者等、人材確保のために必要なツールである。

そこで、快適な就労環境や経営体として備えなければならない労務管理についてセミナーを開催し、就労環境整備の重要性について啓発した。

今後、雇用就農者のさらなる増加、定着を図るため、就労環境整備を具現化したい経営体等を中心にその改善整備を支援していく。



就労環境整備の啓発
「今さら聞けない労務管理」セミナー

2 地域計画の策定支援

対象 地域計画における「地域内の農業を担う者一覧」に位置づけられることが見込まれる経営体 等

令和4年5月に農業経営基盤強化法の一部が改正され、農業者の高齢化や減少に伴い懸念される耕作放棄地の増加、地域の農地が適切に利用されなくなる懸念に対応すべく、地域計画の策定が義務づけされた。これは、地域での話し合いにより、目指すべき農地利用の姿を明確にし、次の世代へ着実に農地を引き継いで行こうというものである。

石巻市、東松島市両市とも、各農業委員会、農政関係各課を中心に、今後の農地の活用意向調査や地域計画策定会議を組み、将来どのように農地を利用していか、地域農業の維持・発展方向について、担い手を中心とした話し合いが実施され、適宜助言等を行った。

次年度からは目標地図の実現を推進する観点から、地域農業の将来像の具現化に向けた取り組みを支援していく。



集落における目標地図作成に向けた
地域計画策定会議の様子

3 法人経営体の経営安定支援

対象 (株)スマイルファーム、(株) DannyFarm、(株) デ・リーフデ大川、
(株) デ・リーフデ北上、(株) やまとファーム石巻、(株)イグナルフ
ファーム、

補助事業を活用した法人や業務の改善を図る法人の早期経営安定化を支援した。

(株) DannyFarm は、大雨や酷暑の影響でなすの生産がここ数年停滞していたが、施肥設計等を支援した結果、過去最高の収量となった。また、事業や資金繰りの各種計画づくりについても支援した

(株) デ・リーフデ 2 社は生育調査や病害虫防除の情報提供、外部からの視察対応時にサポートしている。令和 5 年度の酷暑で大きく減収したことから、令和 6 年度は夏の高温対策を検討し、今年は安定生産できた。

(株) イグナルファームにはきゅうりの安定生産支援、社内会議への参加など経営の安定化を支援した。



(株) DannyFarm のなす栽培施設 (8 月)
令和 6 年の酷暑を乗り越え、収量増加

4 土地利用型法人への耕畜連携による堆肥活用と新たな転作作物の導入の推進

対象 (株)入沢ファーム、(株)サンダーファーム牛田、(有)アグリードなる
せ、(農)奥松島グリーンファーム

令和 6 年度、アグリードなるせが宮戸地区において子実用トウモロコシ栽培 15ha を実施した。今年度は、実験的に食品残渣堆肥を施用し生育状況を観察した。普及センターでは、生育状況の確認や収量調査への支援を実施した。5 月中旬に堆肥散布、その後播種作業が実施された。

施用量の違いによる収量では、10t/10a 区が乾燥重量で 852 kg、5t/10a 区では 802 kg と 50 kg の差が見られたものの、施用量が 2 倍であり、その差は小さいものと思われる。

R 4～5 年度に桃生地域営農推進協議会主体で子実用トウモロコシの実証試験を実施し、R 5 年度には、目標収量 800kg/10a を達成したものの、採算面から加工用ばれいしょ栽培へ切り替える法人も見られた。



子実用トウモロコシ収穫の様子

令和7年度普及指導計画の概要（案）

石巻農業改良普及センター

プロジェクト課題

対象や期間を明確にして効率的・効果的に支援

No.1（継続課題）

課題名

小ねぎ産地における次世代の人材育成

活動期間

令和5年度～令和7年度

対象

JAいしのまきスリムねぎ部会青年部

No.2（継続課題）

課題名

水田におけるばれいしょ及びさつまいもの安定生産

活動期間

令和6年度～令和7年度

対象

(株)めぐいと(東松島市)
(農)おとしお北部(東松島市)
(農)エコルファーム(石巻市)

No.3（新規課題）

課題名

トマト黄化葉巻病の媒介昆虫タバコナジラミに対する防除体系の構築支援

活動期間

令和7年度～令和8年度

対象

管内トマト生産者6人
JAいしのまきで共販している生産者

No.4（継続課題）

課題名

省力化技術の活用による優良大豆種子の生産性向上

活動期間

令和6年度～令和7年度

対象

(株)クリーンライス(石巻市)
(有)高須賀農産(石巻市)
(農)アスターファーム(石巻市)
(農)ドリーム真野(石巻市)
(農)たてファーム・和(石巻市)
蛇田集団転作組合(石巻市)
(株)ぱるファーム大曲(東松島市)

重点活動

施策の動向等を踏まえ、重要性・緊急性の高い項目について重点活動として取り組む

重点活動1（継続）

活動項目

次代を担う多様な担い手の確保、育成と就労環境整備支援

対象

就農希望者、認定新規就農者
雇用就農者、女性農業者
農業経営者、農業法人等

重点活動2（継続）

活動項目

地域計画の実現に向けた取り組み支援

対象

地域計画策定区域、目標地図に位置付けられた経営体及び今後見込まれる経営体等

重点活動3（継続）

活動項目

法人経営体の経営安定支援

対象

(株)DannyFarm
(株)イグナルファーム
(株)ビッグリバー
鹿又堂農組合
須江堂農組合

重点活動4（新規）

活動項目

地域における園芸振興品目の生産推進

対象

①たまねぎ
ぱるファーム大曲
パスカファーム立沼
奥松島グリーンファーム
②いちご
石巻市苺生産組合
河南いちご部会
やもといちご生産組合、
黄金ファーム
イグナルファーム

重点活動5（新規）

活動項目

水稻乾田直播栽培導入農家の早期の技術習得支援

対象

乾田直播栽培に取り組む栽培者
5経営体程度
深谷東生産組合
須江中坪水稻生産組合等

一般活動

農業者や地域の実情に応じて、技術支援や経営改善支援等を実施

1 地域農業を担う経営体の育成

2 農業士活動支援

3 農業後継者の確保と資質の向上

4 青年農業者の活動支援

5 女性農業者の資質向上と活動支援

6 地域資源を生かした地域活性化支援

7 農作物の野生鳥獣被害防止対策支援

8 需要に応じた米づくりの推進

9 高品質麦・大豆の安定生産

10 優良麦・大豆種子生産の推進

11 畜産の生産技術の向上

12 経営管理能力を持つ経営体の育成

13 アグリテックの推進

14 安心・安全な農産物の生産支援

15 野菜の生産力と品質を高める栽培技術の高度化支援

16 花きの品質向上及び安定生産支援

17 果樹の安定生産及び生産拡大支援

18 競争力のあるアグリビジネス展開支援

19 農業情報の発信

●展示ほ・実証ほ等

・水稲 15か所程度
・麦・大豆 12か所程度
・園芸 2か所
・その他 4か所

令和7年度普及指導計画の概要 (案)

令和7年1月31日現在
石巻農業改良普及センター

令和7年度 普及指導方針

1 地域農業を支える多様な人材の育成・確保

- (1) 農業者研修施設や関係機関、農業法人等と連携した新規就農者の確保・育成支援
- (2) 雇用就農者のキャリアアップに向けた支援
- (3) 女性農業士、青年農業者や農業士の資質向上と活動支援
- (4) 認定農業者等の担い手や地域の核となる多様な人材等、地域農業を担う経営体の確保・育成支援
- (5) 農業法人等の円滑な経営継承、後継経営者の育成を支援

2 先端技術等を活用した農業生産の効率化と高度化の支援

- (1) 土地利型経営体におけるICTを活用したアグリテックによる生産効率化支援
- (2) 経営分析・診断に基づく生産・経営の課題解決支援
- (3) 国際的に通用する農業生産工程管理(GAP)に取り組み経営体への支援
- (4) 優良繁殖牛基礎の拡充と飼料自給率や飼養管理技術向上による経営安定化の支援
- (5) 主要農作物種子の安定生産支援

3 先進的園芸法人を核とした園芸振興

- (1) 環境制御技術など先進技術を導入した施設園芸における収量・品質の向上を支援
- (2) 総合的病害虫管理(IPM)技術の導入・実践の支援
- (3) 水田を活用した露地園芸品目の取組支援
- (4) 園芸サブライチエーン構築による安定供給体制の強化と地域の特色を生かした園芸品目の需要に応じて生産拡大を支援
- (5) 既存の園芸産地の維持・拡充による安定供給体制の強化を支援
- (6) 多様なニーズに対応した伝統野菜や地域の特産野菜、花き、果樹等、特色ある園芸品目の生産拡大を支援

4 地域農業の振興に向けた取組支援

- (1) 地域振興の核となる組織及び経営体の育成・支援
- (2) 地域農業経営基盤強化促進計画(地域計画)の実現に向けた取り組み、経営所得安定対策、地域水田収益強化ビジョン等の取組支援
- (3) 地域特性を生かした新品目・新品種の導入、特産品づくりや6次産業化などに取組む経営体の支援
- (4) 市町や農協等関係機関と情報共有を図りながら地域特性を生かしたグリーンツーリズム活動や農福連携に向けた活動支援
- (5) 野生鳥獣被害対策の地域的な取組支援

上記の基本計画等を踏まえて策定

石巻地域普及指導基本方針 (令和3年度～令和7年度)

1 みやぎの農業を担う次世代の人材育成と革新技術の活用等による生産量増の強化

- (1) 先進的経営体や地域の核となる経営体の育成及び経営の安定化・高度化支援
- (2) 新たな担い手の確保・育成と多様な人材の活躍支援
- (3) 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援
- (4) 園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援
- (5) 収益性の高い水田農業、畜産経営の展開支援

2 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

- (1) みやぎの食と農への理解促進と安全・安心な農畜産物生産の取組支援
- (2) 多様化する需要の変化に対応した生産・販売拡大への取組支援

3 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- (1) 地域資源や地域の特色を生かした営農・所得確保等に向けた取組支援
- (2) 関係機関等との連携強化と合意形成推進による地域農業の維持・発展支援
- (3) 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援
- (4) 大規模自然災害等からの復旧・復興に向けた支援

○県政関係

- ・「新・宮城の将来ビジョン」
(令和2年12月策定) (令和3年～令和12年)
- ・「第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画」
(令和3年3月策定) (令和3年～令和12年)
- 普及事業関係
- ・運営指針(国) (令和2年8月)
- ・実施方針(県) (令和3年3月)

令和7年度 普及指導計画

プロジェクト課題

○対象や期間を明確にして効率的・効果的に支援

No.1 (継続課題)
課題名 小ねぎ産地における次世代の人材育成
活動期間 令和5年度～令和7年度
対象 JAIのまきスリムねぎ部会 青年部 (11人)

No.2 (継続課題)
課題名 水田におけるばれいしよ及びさつまいもの安定生産
活動期間 令和6年度～令和7年度
対象 (株)めぐいーと (東松島市)
(株)おおしお北部 (東松島市)
(株)エコルファーム (石巻市)

No.3 (新規課題)
課題名 トマト黄化葉巻病の媒介昆虫タバココナジラミに対する防除体系の構築支援
活動期間 令和7年度～令和8年度
対象 管内トマト生産者6人 (JAIのまきで共販している生産者)

No.4 (継続課題)
課題名 省力化技術による優良大豆種子の生産性向上
活動期間 令和6年度～令和7年度
対象 (株)グリーンラリス (石巻市)
(有)高須賀農産 (石巻市)
(農)アスターファーム(石巻市)
(農)ドリーム真野 (石巻市)
(農)たてファーム・和 (石巻市)
蛇田集団転作組合 (石巻市)
(株)ばるファーム大曲 (東松島市)

一般活動

○農業者や地域の実情に応じて、技術支援や経営改善支援等を実施
○19(令和6年度)の活動項目を設定し活動を展開

重点活動

○施策の動向等を踏まえ、重要性・緊急性の高い項目について重点活動として取り組む

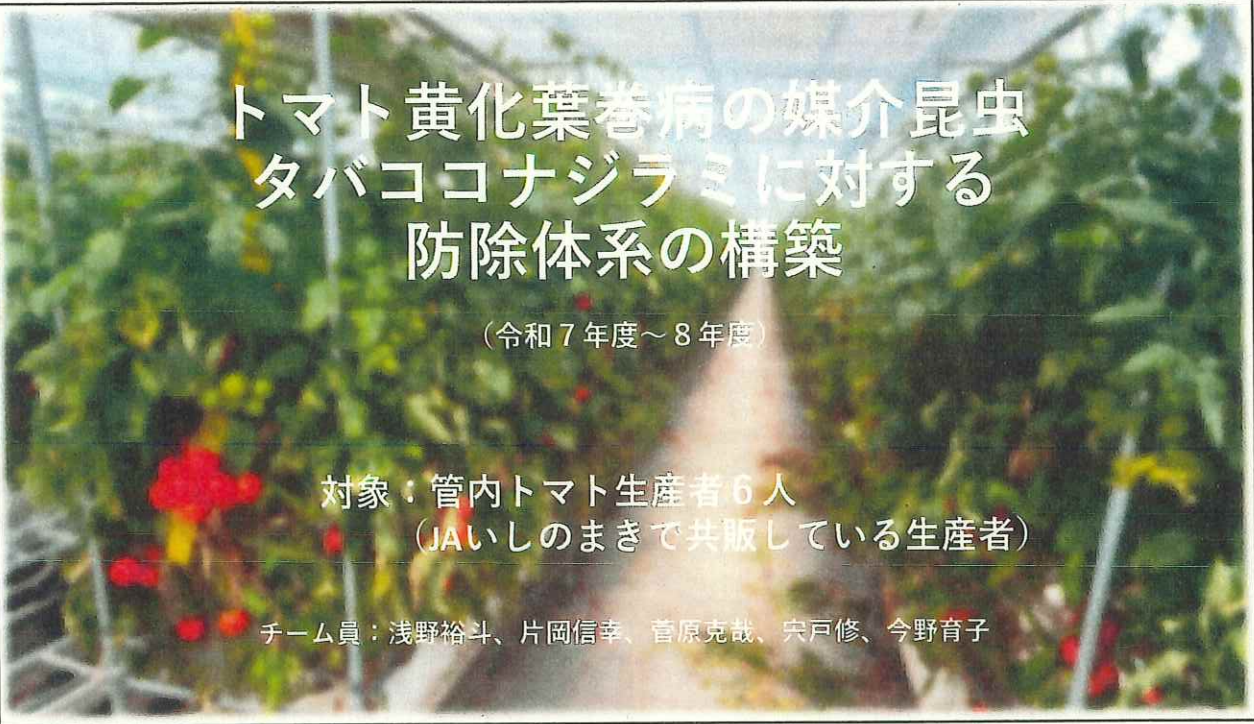
重点活動1 (継続)
活動項目 次世代を担う多様な担い手の確保、育成と労働環境整備支援
対象 就農希望者
認定新規就農者、雇用就農者、女性農業者、農業経営者、農業法人等

重点活動2 (継続)
活動項目 地域計画の実現に向けた取り組み支援
対象 地域計画策定区域、目標地図に位置付けられた経営体及び今後見込まれる経営体等

重点活動3 (継続)
活動項目 法人経営体の経営安定支援
対象 (株)DannyFarm
(株)イグナルファーム
(株)ビッグリバー
唐文宮農組合
須江宮農組合

重点活動4 (新規)
活動項目 地域における園芸振興品目の生産推進
対象 ①たまねぎ
ばるファーム大曲
ハスファーム立沼
奥松島グリーンファーム
②いちご
石巻市母生産組合
河内いちご部会
やまといちご生産組合、
黄金ファーム
イグナルファーム

重点活動5 (新規)
活動項目 水稲乾田直播栽培導入農家の早期の技術習得支援
対象 乾田直播栽培に取り組む栽培者
5経営体 程度
(深谷東生産組合
須江中崎水稲生産組合 等)



トマト黄化葉巻病の媒介昆虫 タバココナジラミに対する 防除体系の構築

(令和7年度～8年度)

対象：管内トマト生産者6人
(JAいしのまきで共販している生産者)

チーム員：浅野裕斗、片岡信幸、菅原克哉、穴戸修、今野育子

➤ 課題の背景

- ・JAいしのまきのトマト出荷量は県内一位と、石巻地域が大きな産地となっており、重要な園芸品目となっている。
- ・JAいしのまきで共販する部会は、石巻トマト生産組合、河南トマト部会、やもとトマト生産組合、いしのまき農協ミディトマト組合、JAいしのまきミニトマト協議会で構成されている。

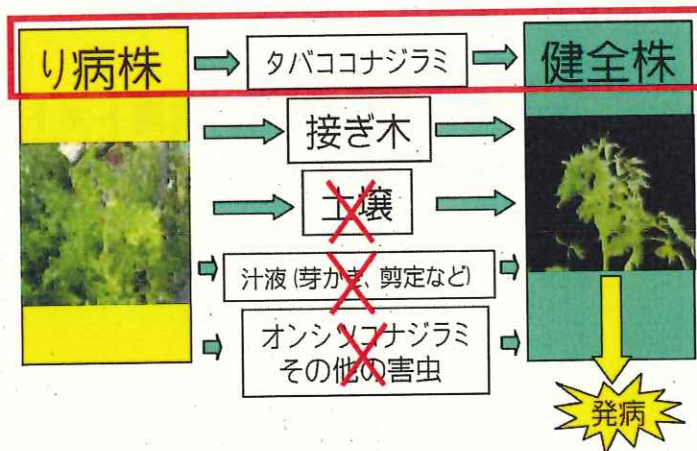
➤ 課題の背景

- ・令和5年度に石巻管内においてトマト黄化葉巻病の発生が確認され、発生の広がりが見られる。
- ・多くの圃場で媒介昆虫であるタバココナジラミの発生が確認されている。
- ・生産者の病害虫に対する認識や意識は、それぞれで異なり、防除対策の実践水準にばらつきがあり、地域として防除対策の取り組みが求められている。



➤ 課題の背景

【トマト黄化葉巻病ウイルスの感染経路】



左図のように生産現場で問題となる感染はタバココナジラミによる吸汁のみ



H24兵庫県作成資料抜粋

➤ 課題の背景

- ・タバココナジラミは薬剤抵抗性が出やすいため、生産現場では防除に苦慮している。
- ・タバココナジラミはトマト以外の品目にも寄生。そこからトマトハウスに飛び込んでくるとも考えられる。防除対策にはタバココナジラミの発生活消長の把握が必要である。
- ・生産者の病害虫に対する認識や意識は、それぞれで異なり、個々人の取組だけでは防除対策に限界。
- ・地域として体系立てられた防除対策や防除体制が必要である。

➤ 課題の背景

【活動対象者】

- ・対象者6名は、近年黄化葉巻病の被害を受けており、特に抑制栽培や夏秋栽培で発生が多い。
- ・それぞれタバココナジラミ防除に苦慮しており、一部対象者では、タバココナジラミの吸汁害による色ムラや、すすの発生が目立つなどの被害も発生している。

○ 発生 △ わずかに発生 — 未発生

	黄化葉巻発生状況				タバココナジラミ発生状況			
	R5促成	R5抑制	R6促成	R6抑制	R5促成	R5抑制	R6促成	R6抑制
A	—	○	—	—	不明	○	○	○
B	—	○	○	○	○	○	○	○
C	—	○	—	○	—	○	○	○
D	—	○	—	—	○	○	○	○
E	—	—	—	○	—	△	△	○
F	—	○	—	○	○	○	△	○

➤ 活動対象の属性

	地区	様式	作型	種類
A	石巻市	土耕	促成・抑制 夏秋	大玉
B	石巻市	土耕・養液	促成・抑制 長期	大玉
C	東松島市	土耕	促成・抑制 夏秋	大玉 中玉
D	石巻市	養液	促成・抑制	中玉
E	東松島市	土耕	夏秋・長期	ミニ
F	東松島市	養液	長期	ミニ

- ・栽培地区 石巻地域全域
- ・栽培様式 土耕・養液
- ・作 型 促成から抑制、長期等
- ・収穫物種類 大玉からミニトマト

➤ 活動対象の防除対策

	防除法									
	抵抗性品種導入	ハウス周囲除草	薬剤ローテ	散布方法・適量	防虫ネット	黄色粘着テープ	ラノーテープ	粒剤施用	施設内消毒	天敵利用
A	○		○			○				
B	○		○					○		
C	○		○	○	△		○			
D	○	○	○	○			○		○	
E	○		○			○		○		
F	○		○			○	○			

- ・対象者各々で農薬散布や黄色粘着テープ、ラノーテープの設置などの防除対策を行っている。



防虫ネットの設置



黄色粘着テープ

天敵

➤ 活動目標

定性的目標

- ・トマト黄化葉巻病を媒介するタバコナジラミに対する対象の防除技術と意識が向上する。

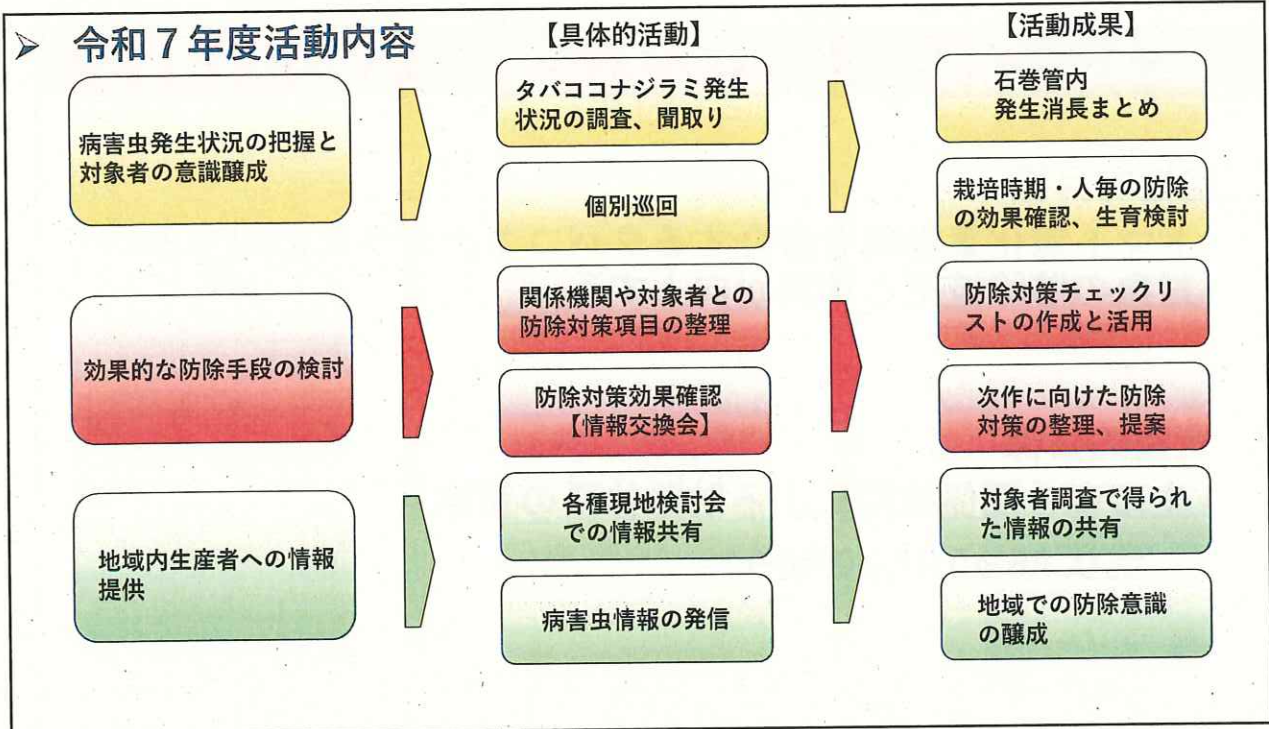
定量的目標

- ・生産者と関係機関による防除体系の策定

現状 R6→0 R7→0 R8→1

令和7年及び8年の活動スケジュール

活動項目	R7	R8	R9以降
病害虫発生状況の把握 活動対象者の意識醸成	○タバコナジラミの発生消長の調査・把握 ○定期巡回（意識調査（生産・経営面）・聞き取り）	○タバコナジラミの発生消長の調査・把握 ○定期巡回（意識調査（生産・経営面）・聞き取り）	⇒ タバコナジラミモニタリングの継続
効果的な防除手段検討	○防除手段の整理・検討 ○情報交換会（年2回） ○防除手段の絞り込み ○防除効果の確認 ○防除体系素案の作成	○防除体系素案の活用 ○情報交換会（年2回） ○防除体系素案の評価と改善 ○石巻版「防除体系Ver.1」の策定	⇒ 地域への普及
共販生産者への情報提供・啓発	○JA等現地検討会や各種研修会での情報提供 ○JA園芸課との情報共有	○JA等現地検討会や各種研修会での情報提供 ○JA園芸課等への石巻版「防除体系Ver.1」の提案協議	⇒ JA園芸課・営農C、部会への働きかけ



➤ **活動期間終了後の成果のイメージ**

トマト黄化葉巻病及びタバココナジラミに対する活動対象者の防除意識・技術が向上する。



地域にふさわしい防除体系
(Vol.1) が策定される



0.4mm防虫ネット



天敵タバココカスミカメ